



IB CONTINUUM
CONTINUUM DE L'IB
CONTINUO DEL IB

国際バカロレア（IB）の教育とは？



International Baccalaureate®
Baccalauréat International
Bachillerato Internacional



IB CONTINUUM
CONTINUUM DE L'IB
CONTINUO DEL IB

国際バカロレア（IB）の教育とは？



International Baccalaureate®
Baccalauréat International
Bachillerato Internacional

IBの一貫教育プログラム

国際バカロレア (IB) の教育とは？

2013年8月に発行、2015年6月および2017年4月改訂の英文原本
What is an IB education? の日本語版
2017年4月発行

本資料の翻訳・刊行にあたり、
文部科学省より多大なご支援をいただいたことに感謝いたします。

注： 本資料に記載されている内容は、英文原本の発行時の情報に基づいています。アップデートされた用語がある場合には、ワークショップなどでは最新の用語にそれぞれ読み替えてご利用ください。

非営利教育財団 国際バカロレア機構
(International Baccalaureate Organization)
15 Route des Morillons, 1218 Le Grand-Saconnex, Geneva, Switzerland

発行所
International Baccalaureate Organization (UK) Ltd
Peterson House, Malthouse Avenue, Cardiff Gate
Cardiff, Wales CF23 8GL, United Kingdom

ウェブサイト：www.ibo.org

© International Baccalaureate Organization 2017

国際バカロレア機構（以下、「IB」という。）は、より良い、より平和な世界の実現を目指して、チャレンジに満ちた4つの質の高い教育プログラムを世界中の学校に提供しています。本資料は、そうしたプログラムを支援することを目的に作成されました。

IBは、資料の中で利用する多様な情報源について、情報の正確さと信憑性を確認します。ウィキペディアのようなコミュニティーベースの知識源を使用する際には、特に留意します。IBは知的財産の原則を尊重し、利用する著作物すべてについて刊行前に著作権者を特定し、許諾を得るよう常に努力します。IBは、本資料で利用した著作物に対して許諾をいただいたことに感謝するとともに、誤記および遺漏がありました場合には、可能な限り早急に訂正いたします。

本資料に関するすべての権利はIBに帰属します。法令またはIB内部規則もしくは方針に明記されていない限り、IBの事前承諾書なしに、本書のいかなる部分も、形式と手段を問わず、複製、検索システムへの保存、送信を禁じます。詳しくは www.ibo.org/copyright をご覧ください。

IBの商品と刊行物は、IBストア (<http://store.ibo.org>) でお求めください。ご注文については、販売・マーケティング部にお問い合わせください。

電子メール：sales@ibo.org

International Baccalaureate、Baccalauréat International および Bachillerato Internacional は、International Baccalaureate Organization の登録商標です。

IBの使命

IB mission statement

国際バカロレア（IB）は、多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する、探究心、知識、思いやりに富んだ若者の育成を目的としています。

この目的のため、IBは、学校や政府、国際機関と協力しながら、チャレンジに満ちた国際教育プログラムと厳格な評価の仕組みの開発に取り組んでいます。

IBのプログラムは、世界各地で学ぶ児童生徒に、人がもつ違いを違いとして理解し、自分と異なる考えの人々にもそれぞれの正しさがあり得ると認めることのできる人として、積極的に、そして共感する心をもって生涯にわたって学び続けるよう働きかけています。



IBの学習者像

すべてのIBプログラムは、国際的な視野をもつ人間の育成を目指しています。人類に共通する人間らしさと地球を共に守る責任を認識し、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する人間を育てます。

IBの学習者として、私たちは次の目標に向かって努力します。

探究する人

私たちは、好奇心を育み、探究し研究するスキルを身につけます。ひとりで学んだり、他の人々と共に学んだりします。熱意をもって学び、学ぶ喜びを生涯を通じてもち続けます。

知識のある人

私たちは、概念的な理解を深めて活用し、幅広い分野の知識を探究します。地域社会やグローバル社会における重要な課題や考えに取り組みます。

考える人

私たちは、複雑な問題を分析し、責任ある行動をとるために、批判的かつ創造的に考えるスキルを活用します。率先して理性的で倫理的な判断を下します。

コミュニケーションができる人

私たちは、複数の言語やさまざまな方法を用いて、自信をもって創造的に自分自身を表現します。他の人々や他の集団のものの見方に注意深く耳を傾け、効果的に協力し合います。

信念をもつ人

私たちは、誠実かつ正直に、公正な考えと強い正義感をもって行動します。そして、あらゆる人々がもつ尊厳と権利を尊重して行動します。私たちは、自分自身の行動とそれに伴う結果に責任をもちます。

心を開く人

私たちは、自己の文化と個人的な経験の真価を正しく受け止めると同時に、他の人々の価値観や伝統の真価もまた正しく受け止めます。多様な視点を求め、価値を見だし、その経験を糧に成長しようと努めます。

思いやりのある人

私たちは、思いやりと共感、そして尊重の精神を示します。人の役に立ち、他の人々の生活や私たちを取り巻く世界を良くするために行動します。

挑戦する人

私たちは、不確実な事態に対し、熟慮と決断力をもって向き合います。ひとりで、または協力して新しい考えや方法を探究します。挑戦と変化と機知に富んだ方法で快活に取り組みます。

バランスのとれた人

私たちは、自分自身や他の人々の幸福にとって、私たちの生を構成する知性、身体、心のバランスをとることが大切だと理解しています。また、私たちが他の人々や、私たちが住むこの世界と相互に依存していることを認識しています。

振り返りができる人

私たちは、世界について、そして自分の考えや経験について、深く考察します。自分自身の学びと成長を促すため、自分の長所と短所を理解するよう努めます。

この「IBの学習者像」は、IBワールドスクール（IB認定校）が価値を置く人間性を10の人物像として表しています。こうした人物像は、個人や集団が地域社会や国、そしてグローバルなコミュニティの責任ある一員となることに資すると私たちは信じています。

目次

国際バカロレア（IB）の教育とは？	1
国際的な視野をもつ	3
「IBの学習者像」	4
幅広く、バランスのとれた、概念的で、関連性の高いカリキュラム	6
「指導の方法」 ^{アプローチ} と「学習の方法」 ^{アプローチ}	8
参考文献	11

国際バカロレア（IB）の教育とは？

より良い、より平和な世界を創造するためのスキル、価値観、知識を若者に与え、生きる力を身につけさせる—そんなひとつのビジョンとミッションを共有した学校、教師、児童生徒の世界的なコミュニティを想像してみてください。それが国際バカロレア（IB）です。

IBは1968年に創設されたディプロマプログラム（DP）から始まりました。DPは、高度でバランスが取れた教育を提供し大学への入学資格として国際的に認められることで、世界のどのような場所や文化圏においても継続して受講可能な教育として考案されました。また、それにより異文化への理解と尊敬を促すというより深い目的に沿ったものとなっています。

IBはその後、1994年に「IB中等教育プログラム」（MYP）を、そして1997年に「IB初等教育プログラム」（PYP）を設置し、国際教育に取り組む、3歳から19歳までの幼児および児童生徒を対象とした一貫教育プログラムを確立しました。2012年のIBキャリア関連プログラム（CP）の導入により、16歳から19歳までの生徒に国際的な教育課程の新たな選択肢が提供され、IBの一貫教育はより豊かなものになりました。

それぞれのIBプログラムが反映している中心的な願いは、児童生徒が自身のまわりの世界のもつ複雑性を理解し、未来のために責任のある行動をとるために必要なスキルと性質を身につけられるような教育を提供するということです。IBのプログラムは、教科、文化、国家、地理的な境界をこえた教育を提供し、新しい発想や効果的な関係性の構築につながる刺激となる批判的な取り組みを特に大切にしています。

これらの目標は、以下に挙げるIBの意欲的な使命に要約されています。

国際バカロレア（IB）は、多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する、探究心、知識、思いやりに富んだ若者の育成を目的としています。

この目的のため、IBは、学校や政府、国際機関と協力しながら、チャレンジに満ちた国際教育プログラムと厳格な評価の仕組みの開発に取り組んでいます。

IBのプログラムは、世界各地で学ぶ児童生徒に、人がもつ違いを違いとして理解し、自分と異なる考えの人々にもそれぞれの正しさがあり得ると認めることのできる人として、積極的に、そして共感する心をもって生涯にわたって学び続けるよう働きかけています。

本資料『国際バカロレア（IB）の教育とは？』は、主に教師向けに書かれたもので、私たちの教育理念の概要を示したものです。IBのプログラムは、初等教育プログラム（PYP：3歳～12歳）、中等教育プログラム（MYP：11歳～16歳）、ディプロマプログラム（DP：16歳～19歳）、およびキャリア関連プログラム（CP：16歳～19歳）の4つで、それらは単独、もしくは組み合わせで実施することができます。本資料は、IBの教育理念がこれら4つのIBプログラムをどのように形作っているかを説明しています。

国際的な視野をもつ

すべてのIBプログラムのねらいは、人類に共通する人間らしさと地球を共に守る責任を認識した国際的な視野をもった人間を育てることにあります。このねらいの中心にあるのが「国際的な視野をもつ」ということです。

国際的な視野とは、世界に対しての開かれた態度と、人間が相互に関わりあっているという事実を認識した考え方、在り方、そして行動によって特徴づけられる、多面的かつ複雑な概念です。

世界に対して開かれた人であるためには、世界を理解しなければなりません。したがってIBプログラムは、ローカルおよびグローバルのさまざまな課題や考え方を、持続的に探究する機会を児童生徒に提供します。目の前の状況や境界線をこえてものごとを見ようとすることによるこのような姿勢は、グローバル化と新しい技術により地域、国内、世界という従来の区別があいまいさを増す世界において必要不可欠なものなのです。

IBの教育は児童生徒が自分自身のものの見方、文化、アイデンティティーを振り返り、そして他者のそれに対しても同様に振り返りを行うことを促すことで国際的な視野を育みます。IBの学習者は異なる信念、価値観、および経験に対して価値を見だし、異なる文化や学問領域を横断的に捉え、協力することを学びます。これにより、より平和で持続的な世界への進歩に必要な理解を発展させます。

さらにIBの教育は多言語主義を通じて国際的な視野の発達を促します。児童生徒はすべてのIBプログラムにおいて、複数の言語で学習を行うことが求められます。これは、複数の言語でコミュニケーションを行うことは異文化への理解と敬意を育むためのすばらしい機会を与えてくれる、というIBの信念に基づくものです。それは、児童生徒が自身の言語、文化、世界観が数ある中の1つでしかないことを理解する助けになります。

また国際的な視野は、グローバルな関わりに焦点をあてたり、コミュニティにおける有意義な奉仕活動に従事することでも育てることができます。これらは同時に、権力や特権に関する批判的考察や未来の世代のために地球とその資源を託されているという児童生徒の自覚につながっていきます。さらに、取り組み、行動し、意義のある変化を起こすといった、認識や理解の先にある「行動」にIBのすべてのプログラムが焦点をあてていることを強調します。

本資料に記載されたIB教育の各構成要素は、IBの包括的なねらいである国際的な視野の発展を一体となってサポートします。

「IBの学習者像」

IBの教育の中心に児童生徒が置かれていることを顕著に表しているのが、「IBの学習者像」です。

10の人物像は、IB教育の全人的な性質^{ホリスティック}を反映していて、好奇心や思いやりといった素質を育み、知識やスキルを発展させることの重要性を強調しています。同時に認知的発達だけでなく、児童生徒の社会的、感情的、身体的健康に注意を払い、IBプログラムを通して児童生徒が自身、他者、周辺世界に敬意を払うことを確実に学ぶことを強調します。

IBの教員は、児童生徒がIB教育の過程でこのような人間性を発展させ、彼らが成熟するにつれ、より強固かつ洗練された方法でそれらを実践していけるように支援します。これらの人間性の発展は、より良い世界を築くことに貢献できる国際的な視野をもった児童生徒を育成するための基礎となります。

人物像	説明
探究する人	私たちは、好奇心を育み、探究し研究するスキルを身につけます。ひとりで学んだり、他の人々と共に学んだりします。熱意をもって学び、学ぶ喜びを生涯を通じてもち続けます。
知識のある人	私たちは、概念的な理解を深めて活用し、幅広い分野の知識を探究します。地域社会やグローバル社会における重要な課題や考えに取り組みます。
考える人	私たちは、複雑な問題を分析し、責任ある行動をとるために、批判的かつ創造的に考えるスキルを活用します。率先して理性的で倫理的な判断を下します。
コミュニケーションができる人	私たちは、複数の言語やさまざまな方法を用いて、自信をもって創造的に自分自身を表現します。他の人々や他の集団のものの見方に注意深く耳を傾け、効果的に協力し合います。
信念をもつ人	私たちは、誠実かつ正直に、公正な考えと強い正義感をもって行動します。そして、あらゆる人々がもつ尊厳と権利を尊重して行動します。私たちは、自分自身の行動とそれに伴う結果に責任をもちます。
心を開く人	私たちは、自己の文化と個人的な経験の真価を正しく受け止めると同時に、他の人々の価値観や伝統の真価もまた正しく受け止めます。多様な視点を求め、価値を見いだし、その経験を糧に成長しようと努めます。
思いやりのある人	私たちは、思いやりと共感、そして尊重の精神を示します。人の役に立ち、他の人々の生活や私たちを取り巻く世界を良くするために行動します。

人物像	説明
挑戦する人	私たちは、不確実な事態に対し、熟慮と決断力をもって向き合います。ひとりで、または協力して新しい考えや方法を探求します。挑戦と変化と機知に富んだ方法で快活に取り組みます。
バランスのとれた人	私たちは、自分自身や他の人々の幸福にとって、私たちの生を構成する知性、身体、心のバランスをとることが大切だと理解しています。また、私たちが他の人々や、私たちが住むこの世界と相互に依存していることを認識しています。
振り返りができる人	私たちは、世界について、そして自分の考えや経験について、深く考察します。自分自身の学びと成長を促すため、自分の長所と短所を理解するよう努めます。

幅広く、バランスのとれた、概念的で、 関連性の高いカリキュラム

4つのそれぞれのIBプログラムでは、幅広く、バランスのとれた、概念的で、関連性の高い、きめ細やかかつ発達段階に適したカリキュラム、またはその枠組みを提供しています。

IBプログラムは、幅広く、バランスのとれたアカデミックな学習と学びの体験に触れる場を児童生徒に提供します。IBの概念学習では教科横断的な領域における関連性、すなわち体系化のための考えが重視されるため、学習内容を統合しカリキュラムに一貫性を持たせています。

プログラムは各学習分野を関連づけ、その関係性を探究し、それぞれの教科の枠にとられずに世界について学ぶことの重要性を強調しています。そして、児童生徒の学習と彼らのまわりの世界をつなげる真の機会を提供することに焦点をあてます。

4つのプログラムはすべて、国際的な視野とIBの学習者像を育むという共通の目標で支えられつつ、それぞれに独自のアイデンティティーと発達段階に適した要素をもっています。以下に例を挙げます。

- ・ 初等教育プログラム（PYP）では従来の教科の枠をこえた学習を展開しています。児童は以下の6つの教科横断的テーマを探究します。「私たちは誰なのか」、「私たちはどのような場所と時代にいるのか」、「私たちはどのように自分を表現するのか」、「世界はどのような仕組みになっているのか」、「私たちは自分たちをどう組織しているのか」、そして「この地球を共有するということ」です。
- ・ 中等教育プログラム（MYP）においては、生徒はPYPの教科横断的テーマをさらに発展させた以下の6つのグローバルな文脈を探究します。「アイデンティティーと関係性」、「個人的表現と文化的表現」、「空間的時的位置づけ」、「科学技術の革新」、「公平性と発展」、そして「グローバル化と持続可能性」です。
- ・ ディプロマプログラム（DP）は、6つの教科とDPの3つの「コア」の必修要件で構成されています。「コア」のうちの1つ「知の理論」（TOK）では、「私たちが知っていることをどのように知るのか」という根源的な問いに対する探究を通して、生徒が自身のもっている観点と仮定に対してより認識を深めるよう促します。
- ・ キャリア関連プログラム（CP）では、生徒はDPのコースの学習と、キャリア関連学習およびCPの「コア」の4つの必修要件を組み合わせます。そのうちの1つである「個人的技術と職業的技術」は、生徒が将来的に職場で遭遇しうる個人的および職業的なさまざまな状況に効果的に対応するための準備を行うことに焦点をあてます。

また、4つのIBプログラムのすべてにおいて、最終プロジェクト（PYPにおいては「エキシビション発表会」、MYPにおいては「パーソナルプロジェクト」または「コミュニティープロジェクト」、DPにおいては「課題論文（EE）」、CPにおいては「振り返りプロジェク

ト」)を完了させる必要があります。これらのプロジェクトは、児童生徒が自身の知識、理解、スキルを披露する機会となります。

カリキュラムの目標をサポートするものとして、意味のある評価は欠かすことができません。IBプログラムではさまざまな形の評価がカリキュラムと一体となり、継続的に実施されます。IB認定校では、児童生徒の学習を評価するために多様な方法とツールを用います。ここで重点を置いているのが、評価データを解析し指導と学習に役立てることの重要性と、児童生徒に自身および他者の取り組みを評価する方法を学ぶことによって得られるメリットを認識させることです。

中等教育プログラム(MYP)、ディプロマプログラム(DP)、およびキャリア関連プログラム(CP)では、IBが認めたさまざまな評価方法を提供しています。これらの評価は妥当性と信頼性のバランスがとられたもので、例えば、単に事実を思い出すのではなく、より高次の思考を生徒に実証させるような評価課題が与えられるのです。こうした厳格な評価システムは、高水準でチャレンジに満ちたプログラムであるという、IBが努力の末勝ちとった評判を維持するのに役立っています。

「^{アプローチ}指導の方法」と「^{アプローチ}学習の方法」

現代の教育研究に基づいた I B の 6 つの「^{アプローチ}指導の方法」と 5 つの「^{アプローチ}学習の方法」は、I B ワールドスクール（I B 認定校）の教員と児童生徒を導き、目標を明確にさせるものです。これらの方法は、教室内で I B 教育が掲げる目標を確実に実現させるために、非常に重要な役割を果たします。

これらの方法は、探究、行動、振り返りのサイクル（問いかけること、行動すること、思考することの相互作用）を通して教師と児童生徒の日々の活動に意義を見いだすことを中心としています。また、人間関係にも強く着目します。このことは教育的成果は教師と児童生徒の関係によって強く形作られるという I B の信念を反映させたものであると同時に、意味を見だし、世界を理解するために人々が協同するさまざまな方法を賞賛するものです。

^{アプローチ}指導の方法

共通する 6 つの方法は、すべての I B プログラムの指導を支えるものです。これらの方法は、意図的に幅広いものとなっており、各教師それぞれの文脈と担当する児童生徒のニーズを最大限反映できるように、各教師が特定の進め方を選択できる柔軟さをもたせてあります。

すべての I B プログラムにおける指導は以下のとおりです。

- ・ **探究を基盤とした指導**：児童生徒がそれぞれ独自に情報を入手し、独自の理解を構築することが重視されています。
- ・ **概念理解に重点を置いた指導**：各教科における理解を深め、児童生徒がつながりを見出し新しい文脈へと学びを転移させることを助けるために、概念の探究が行われます。
- ・ **地域的な文脈とグローバルな文脈において展開される指導**：指導には実際の文脈と例を用い、児童生徒は自分の経験や自分の周りの世界と関連づけて新しい情報を処理することが奨励されています。
- ・ **効果的なチームワークと協働を重視する指導**：^{コラボレーション}児童生徒間でのチームワークと協働を促すだけでなく、教師と生徒間の協働関係もこれに含まれます。
- ・ **学習への障壁を取り除くデザイン**：指導は包括的で、多様性に価値を置きます。児童生徒のアイデンティティを肯定し、すべての児童生徒が自身の適切な個人目標を設定し、それを追求するため、学習機会を創出することを目指します。
- ・ **評価を取り入れた指導**：評価は学習成果の測定だけでなく、学習の支援においても重要な役割を果たします。効果的なフィードバックを児童生徒に提供するということも、重要な指導方法のひとつとして認識されています。

アプローチ 学習の方法

学習の方法に対する私たちの焦点は、学び方を学ぶことが児童生徒の教育の基本である、という信念に基づいています。

相互に関連するスキルの5つのカテゴリーのねらいは、全年齢のIBの児童生徒が、良い質問をし、効果的な目標設定を行い、自身の願望を追求し、それを達成する決意を持った、自己調整が可能な学習者になるための力を与えることです。これらのスキルは、児童生徒に自身の学習をアクティブでダイナミックなプロセスとして捉えるよう促し、客観的な判断を支えるものとなります。

これらの5つのカテゴリーは、各プログラム内で発達段階に適した方法で強調されるスキルと共に、すべてのIBプログラムに及びます。5つのカテゴリーは以下のとおりです。

- ・ クリティカルシンキング 批判的思考、創造的思考、倫理的思考などの分野を含めた思考スキル。
- ・ 情報の比較、対照、検証、優先順位づけなどのスキルを含むリサーチスキル。
- ・ 口頭および記述によるコミュニケーション、効果的な傾聴、および議論を組み立てることなどを含むコミュニケーションスキル。
- ・ 良好な社会的関係を築いて維持する、他者の話を傾聴する、対立関係を解消する、といった社会性スキル。
- ・ 時間や課題の管理といった管理・調整スキル、および感情やモチベーションを管理する情意スキルの両方を含む自己管理スキル。

行動的で、思いやりをもった生涯学習者を育成するというIBの使命を支える上で、これらのスキルの発展は重要な役割を果たしています。これらのスキル領域は個別のカテゴリーとして提示されていますが、お互いに密接なつながりを持ち、重複した部分があり、相互に関係していると見なすべきです。

結論

IBの教育は、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する、探究心、知識、思いやりに富んだ若者の育成を目的としています。過去に前例のないペースでの変化の中から、グローバルな課題が次々と現れるこの時代において、IBの教育はかつてないほど適切かつ必要なものとなっています。

国際バカロレア機構とそのプログラムは、さまざまな点で独創的なものといえます。国際バカロレア機構は非営利団体であり、これはIBには株主がおらず、余剰利益はすべて私たちの仕事に投資されるということを意味します。私たちは政治的、商業的利益から独立しており、IBプログラムは世界中で非常に多様な範囲の学校で展開されています。これには公立校と私立校、国立学校とインターナショナル・スクール、大きな学校から小さな学校までが含まれます。

他に類を見ない I B 最大の特徴は、教育がより良い世界を築くことに貢献する、という共通の信念をもつ教育者の世界的なコミュニティを形成している点にあります。I B の児童生徒に可能な限り最高の教育を提供するために、各 I B プログラムやカリキュラムは定期的な見直しを行います。カリキュラムを見直すこのプロセスには、多様な文化や背景をもった教育者が参画し、開発過程において実際に各プログラムを指導する教師が、必ず重要な役割を担うことになっています。このことはまた、私たち自身と権威ある学術団体双方による研究に基づいて、I B のビジョンが常に研ぎ澄まされたものになっていることを意味します。

I B は、挑戦的な考え方をもって物事に批判的に向き合う姿勢、革新と改善への意欲と私たちの不変の根本原則を組み合わせる姿勢を常に大切にしてきました。本資料『国際バカロレア（I B）の教育とは？』が、単に情報を提示するだけでなく、さらなる話し合いと議論を奨励するようなものとなっているのは、この理由からなのです。

参考文献

『国際バカロレア（IB）の教育とは？』は、以下の英文資料を含む、さまざまな視点および文献を参考にしています。

Audet, RH and Jordan, LJ (eds). 2005. *Integrating inquiry across the curriculum*. Thousand Oaks, California, USA. Corwin Press.

Bates, R (ed). 2010. *Schooling internationally: globalisation, internationalisation and the future for international schools*. London, UK. Routledge.

Boix Mansilla, V and Jackson, A. 2011. *Educating for global competence: Preparing our youth to engage the world*. New York, USA. Council of Chief State School Officers and Asia Society Partnership for Global Learning.

Boyer, EL. 1995. *The Basic School: A community for learning*. Stanford, California, USA. The Carnegie Foundation for the Advancement of Teaching.

Brooks, JG and Brooks, MG. 1999. *In search of understanding: The case for constructivist classrooms*. Alexandria, Virginia, USA. Association for Supervision and Curriculum Development.

Bruner, J. 1996. *Culture of education*. Cambridge, Massachusetts, USA. Harvard University Press.

Bruner, J, Goodnow, J and Austin, G. 1986. *A study of thinking*. New York, USA. Transaction Publishers.

Claxton, G. 2008. *What's the point of school?: Rediscovering the heart of education*. Oxford, UK. OneWorld Publications.

Claxton, G et al. 2011. *The Learning Powered School: Pioneering 21st Century Education*. Bristol, UK. TLO Ltd.

Collins, H T, Czarra, FR and Smith, AF. 1995. *Guidelines for global and international studies education: Challenges, culture, connections*. New York, USA. American Forum for Global Education.

Costa, A. and Kallick, B. 2009. *Habits of Mind across the Curriculum: Practical and Creative Strategies for Teachers*. Alexandria, VA. USA. ASCD.

Cummins, J. 2000. *Language, power and pedagogy*. Clevedon, UK. Multilingual Matters.

Delors, J et al. 1999. *Learning: the treasure within. Report to UNESCO of the International Commission on Education for the Twenty-first Century*. Paris, France. UNESCO.

Dewey, J. 1909. *Moral principles in education*. In LA Hickman and TA Alexander (eds). The Essential Dewey volume 2. 1998. Bloomington, Indiana, USA. Indiana University Press.

Dewey, J. 1916. *Democracy and education: An introduction to the philosophy of education*. New York, USA. Macmillan.

Dewey, J. 1933. *How we think: A restatement of the relation of reflective thinking to the educative process*. Boston, Massachusetts, USA. Heath.

- Doll, WE and Gough, N. 2002. *Curriculum visions*. New York, USA. Peter Lang.
- Dweck, C. 2006. *Mindset*. New York, US. Random House
- English, F, (ed). 2004. *Sage handbook of educational leadership*. Thousand Oaks, California, USA. Sage Publications.
- Erickson, HL. 2008. *Stirring the head, heart and soul*. Heatherton, Victoria, Australia. Hawker Brownlow.
- Fairclough, N (ed). 1992. *Critical language awareness*. London, UK. Longman.
- Gardner, H. 2011. *Frames of mind: The theory of multiple intelligences*. New York, USA. Basic Books.
- Gee, JP. 1990. *Social linguistics and literacies: Ideology in discourses*. New York, USA. The Falmer Press.
- Grant, CA and Portera, A. 2011. *Intercultural and multicultural education: Enhancing global connectedness*. New York, USA. Routledge.
- Grainger, T (ed). 2004. *The RoutledgeFalmer Reader in Language and Literacy*. London, UK. Routledge.
- Hanvey, R. 2004. *An attainable global perspective*. New York, USA. American Forum for Global Education.
- Hicks, D and Holden, C. 2007. *Teaching the global dimension: Key principles and effective practice*. Oxford, UK. Routledge.
- Kincheloe, JL. 2004. *Critical pedagogy: A primer*. New York, USA. Peter Lang.
- Laverty, M. 2010. "Learning our concepts". *Journal of philosophy of education*. Vol 43.1. pp 27-49.
- Lucas, B, Claxton, G. and Spencer, E. 2013. *Expansive Education: Teaching Learners for the Real World*. Maidenhead, UK. McGraw-Hill.
- McWilliam, E. 8–10 January 2007. "Unlearning how to teach". Paper presented at *Creativity or Conformity? Building Cultures of Creativity in Higher Education*. Cardiff, UK.
- Murdoch, K and Hornsby, D. 1997. *Planning curriculum connections: Whole-school planning for integrated curriculum*. Melbourne, Victoria, Australia. Eleanor Curtain Publishing.
- Perkins, D. 2009. *Making Learning Whole*. San Francisco, CA. Jossey-Bass.
- Perkins, D. 2014. *Future Wise: Educating Our Children for a Changing World*. San Francisco, CA. Jossey-Bass.
- Piaget, J. 1970. *Structuralism*. New York, USA. Basic Books.
- Pike, G and Selby, D. 1989. *Global teacher, global learner (second edition)*. London, UK. Hodder & Stoughton.
- Schön, D. 1983. *The reflective practitioner: How professionals think in action*. London, UK. Temple Smith.
- Steinberg, S and Kincheloe, J (eds). 1998. *Students as researchers: Creating classrooms that matter*. London, UK. Falmer.

Stiggins, R.J. 2001. *Student-involved classroom assessment (third edition)*. Upper Saddle River, New Jersey, USA. Merrill/Prentice-Hall.

Tough, P. 2013. *How Children Succeed: Grit, Curiosity and the Hidden Power of Character*. London, UK. Random House.

Vygotsky, L.S. 1986. *Thought and language (revised and translated by Alex Kozulin)*. Cambridge, Massachusetts, USA. MIT Press.

Walker, G (ed). 2011. *The Changing Face of International Education: Challenges for the IB*. Cardiff, UK. International Baccalaureate Organization.

Wiggins, G and McTighe, J. 2005. *Understanding by design*. New Jersey, USA. Pearson.